令和６年度　学校評価　【 中 間 結 果 】

加賀市立錦城小学校

学校教育ビジョン
「自ら考え、協働できる児童の育成」～みんなが幸せになれる学校をみんなでつくる～

・目指す児童像　みんなが幸せになれるために　協働できる子
・目指す教師像　児童のグロースマインドセットを高められる教師
・基本方針　学校教育ビジョンの具現化に向け、①確かな学力の育成　②豊かな心の育成　③健やかな体の育成　の取組を組織的な学校運営及び家庭・地域との連携を通して行う。

評価の項目	今年度の重点目標	具体的取組	主担当	現状及び取組状況	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	備考	判定結果（中間）	2学期に向けての改善策
①教育課程・学習指導	児童一人一人の基礎的な学力をつけるために組織的かつ継続的に推進できる体制づくりを通して，安定的な学力向上のシステムを確立する。	学力向上をめざした持続的な組織体制の強化のために，学校研究との連携を図りながら授業改善を進めるとともに，学力の定着度を図るための見取りをする。	授業づくり・学力向上部 教務主任	昨年度は基礎・基本の定着を図った。組織的・協働的に各部で取り組み，おおむね目標は達成できた。さらに子どもの力を伸ばすためにステップアップを図る。	【努力指標】 全教職員が学力向上に向けて，「BE THE PLAYERプラン」にそって取り組んでいく。	国語・算数における単元末テストの平均点が A 80%以上である。 B 75%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C・Dの場合は再検討する。 毎学期，児童にアンケートを実施する。	A	国語・算数における単元末テストの平均点がA 80%以上であることを目標に1学期は取り組んだ。学校全体では80%以上の平均点を取ることができた。しかし、学年によっては80%を割る学年もあった。今後は一度学んだ学習のテストであることを加味し，2学期以降は平均を83%にあげていきたい。学んだあとの，定着をするためのまとめ，プリントの見取り，児童自らの振り返りを今後は推進していく。
②生徒指導 ※いじめの未然防止	子どもたちが毎日充実して生活できる学校を作る。	・全校を巻き込んだ児童会活動の充実を図る。 ・月に1度，教師が児童の良いところを見つけ掲示する「ほめほめweek」を実施し，児童を肯定的に見る取組を行う。 ・学級力アンケートを活用し，学級目標の実現を目指す。 上記の3点を推進することで，いじめの未然防止につなげる。	学びの基盤部 生徒指導主事	・前年度の児童議会は，委員会で決定した内容の報告会になっており，トップダウンの流れになっていた。 ・教職員が児童を肯定する雰囲気は一部に留まっており，学校全体に広がっていなかった。 ・学級力アンケートの取り組みは前年度同様，継続して行う。	【満足度指数】 児童が学校生活を楽しいと感じている。	児童生活アンケートで，「学校が楽しい」「どちらかちえば学校が楽しい」と回答する児童の割合が A 90%以上である。 B 85%以上である。 C 80%以上である。 D 80%未満である。	C・Dの場合は再検討する。 毎月，児童にアンケートを実施する。	A	児童生活アンケートで、「学校が楽しい」「どちらかちえば学校が楽しい」と回答する児童の割合が91%であった。毎日充実した学校生活を送ることができるように，「ほめほめweek」「学級力アンケート」「児童が主体となった児童会活動の運営」を実施してきた。その結果，児童を肯定的に見る習慣が身についてきたり，児童が主体となるような行事の運営ができるようになってきたりしている。また，問題行動があった際には，すぐに報告し，管理職と相談して対応していく流れができていた。今後も，児童が充実して過ごすことができる学校を全職員で作っていく。
③キャリア教育・進路指導	働くことや責任を果たすことで，達成感を感じさせたり，仲間と協力する喜びを感じさせたりすることで，自己肯定感を高める。	係活動や委員会では，めあてをもたせ，さらにこまめに活動を振り返る場を設定することで，責任を果たすことや仲間と協力することの大切さを学ばせる。	児童会担当	前年度アンケート結果より，自ら活動等に参加できていると回答した児童の割合が多かった。委員会ごとにイベントも充実していた。課題として，他の委員会のイベントに自ら参加する児童が少なかった。	【成果指数】 進んで係活動や委員会に参加する児童が増えてきている。	それぞれの活動等に自ら参加できたと感じている児童の割合が A 90%以上である。 B 85%以上である。 C 80%以上である。 D 80%未満である。	C・Dの場合は再検討する。 1,2学期末に児童にアンケートを実施する。	A	児童アンケートでの結果が「できた」「どちらかといえばできた」の肯定的回答が93%であり、90%を上回った。特に「委員会活動に自分から進んで参画した・企画・運営した」という意識を高めるために、年度当初に設定した児童会目標を達成すべく、各委員会に活動の企画をお願いした。企画→実行→ふり返りのサイクルを2学期以降も継続する。また1～4年生には各委員会の企画に参画するよう、学級担任及び各委員会担当者より声掛けを行っていく。
④保健管理	健やかな成長を促すため，給食において，成長期に必要な食事の量を理解するとともに，適正な量の副菜を食べようとする児童を育成する。	給食において，副菜の適正な量を理解するため，毎食盛りきって配食するよう指導する。また，学年に応じて食指導を行う。	保健主事	昨年度より「盛りきり」を実践したところ，主食主菜については食べきれる回数が増えてきたが，副菜については残食量が10%を超えることが多い。	【成果指数】 副菜について適正な量を食べようとする児童が，増加している。	児童アンケートで「副菜について適正な量を食べようとする回数が増えた」と答える児童の割合が A 80%以上である B 75%以上である C 70%以上である D 70%未満である	C・Dの場合は再検討する。 1,2学期末に児童にアンケートを実施する。	D	児童アンケートでの結果が「いつも食べきっている」「どちらかというと食べきっている」と回答した児童が65%であった。また1学期における副菜の残食量が18%であり，主食や牛乳と比較しても割合が一番多い。6月に副菜に関するミニ食指導を行うことで意識を高める機会を設定したがあまり効果が上がらなかった。2学期は児童が苦手とする食材にポイントを絞って少しでも食べる意欲が持てる指導内容を検討し実施していきたい。
⑤安全管理	教職員は校舎内外の安全管理と安全教育を行い，児童が自分で自分を守ることができる力を育成する。	定期的に教職員による安全点検を行うとともに，学校安全教育計画に基づいた指導や避難訓練時の指導を通して，安全に気をつけて行動する児童の意識を高める。	教頭	安全点検等の取組により，教職員の安全管理に対しての意識は高いが，廊下を走るなど，安全に気をつけて行動できていない児童がみられる。	【成果指標】 廊下を走らず安全に気をつけて行動している児童が増えている。・	児童アンケートで、「廊下を走らず安全に気をつけて行動できた」と回答する児童の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C・Dの場合は再検討する。 1，2学期末に児童にアンケートを実施する。	C	児童アンケートでの結果が，「できた」「どちらかというとできた」の肯定的回答が79%と，80%を下回った。「自分の身は自分で守る」という意識を高めるために，2学期では，廊下を走る危険性が実感できるように，動画教材を作成し，学級活動等で指導するとともに，全教職員での声かけを推進していく。
⑥特別支援教育	児童一人一人のニーズを把握し，生活や学習上の困難を改善または克服し「幸せ」を感じられるようになるために適切な指導や必要な支援を行う。	児童のクローズマインドセットを高めるために，UDLを意識した授業を行うとともに，支援を要する児童の困り感に応じた指導を工夫する。ICTを活用したUDLを進める。	特別支援教育 コーディネーター	児童の困り感を早期に捉え，気づき票から実態把握している。支援委員会を開き，方針の決定・共通理解をしてきた。担任は学期ごとに計画評価し，支援に取り組んできている。	【満足度指標】 困り感のある児童も含めて児童が「やればできると思うことが増えた」と感じている。	UDLの実践，困り感のある児童への特性に応じた支援計画と改善により児童アンケートで「やればできると思うことが増えた」と答えた児童の割合が、 A 80%以上である。B 70%以上である。 C 60%以上である。D 60%未満である。	C・Dの場合は再検討する。 1，2学期末にに児童アンケートを実施する。	A	肯定的回答が92%であるが，否定的回答が高割合の学年がある。一人一人の児童の困り感の把握，学びを支える足場づくり，適切な学習環境・支援員配置などをこれからも行い，変容を見守っていく。
⑦組織運営・業務改善	時間外勤務時間月80時間を超える職員がゼロの業務改善を図る。	運営委員会を中心に各部会がそれぞれに役割を果たし，チームとしての組織化・協働化された学校運営を図る。	教頭	年度当初、校務分掌によっては時間外勤務がすでに80時間超えの職員がいるが，仕事の平準化，業務の削減など意識している職員は増えている。	【努力指標】 各部会中心に，組織化が推進され，限られた時間内で円滑な学校運営になるよう効率よく取り組んでいる。	月の時間外勤務時間が80時間超の職員が A ゼロ。 B 1割（未満）いる。 C 2割（1割以上2割以内）いる。 D 2割以上いる。	C・Dの場合は再検討する。 毎月の勤務時間表で確認する。	B	月の時間外勤務時間が80時間超の教職員数が，4月は1人，5月は3人であったが，6・7月は0人と改善しつつある。2学期の対策として，月の時間外勤務時間が45時間を超えない出退勤の時刻のパターンを提示し，推進する。また，お便りのデータ化を推進するなど，業務の負担軽減に取り組む。
⑧研修	自律した学び手の育成に向けた子どもに委ねる学びの効果的な授業実践を増やす。	研究全体会を定期的に開き，各教諭の実践を交流する中で，より良い実践を研究していく。	授業づくり・学力向上部 研究主任 若プロ担当	子どもに委ねる時間が授業の中で増えてきている一方，自分で適した学習を考えられている児童は少ない。	【努力指標】 研究全体会，整理会などで話し合われたことを共通理解し，研究主題達成に向けよりよい実践を考えている。	共通理解のもと授業改善に A 十分に取り組んだ B 取り組んだ C どちらかというと取り組んでいない D 取り組んでいない	C・Dの場合は再検討する。 1,2学期末に教職員にアンケートを実施する。	B	肯定的回答が100%である一方，A回答が31%（13人中の4人）であった。今後の方策を以下に示す。 ①教材研究の日に，錦城スタイルを単元のどこに位置付けるのかを各教員に考えてもらう。 ②授業交流週間で公開する授業に錦城スタイルを取り入れてもらう。 ③form等で定期的な振り返りを各教員が行うことで，実践意識を高める。
⑨保護者，地域との連携	家庭・地域との連携を図り，開かれた学校づくりを目指すために学校の様子を発信する。	学校運営協議会やPTAの会合，さらに，授業参観・ホームページ・お便り・連絡メール等を通して，学校教育活動を知らせる。	教頭	ホームページや連絡メールを利用して，地域の方々にも発信できるようにしている。	【満足度指標】 家庭・地域との連携し，開かれた学校となり，学校の様子が十分に伝わっている。	保護者アンケートで，「学校の様子がよく伝わっている。」と回答した保護者の割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C・Dの場合は再検討する。 1，2学期末に保護者アンケートを実施する。	B	保護者アンケートで，「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の回答率が，86%であった。2学期の対策として，引き続き学校便りやコドモン等を通して，積極的に学校教育活動の取組等を発信していく。
⑩教育環境整備	学習に必要な教材や学習環境の整備を図る。	学習環境・教材整備に努め，学校予算への関心を高める。	総務部 予算委員会	教材・教具の使い方や整理が不十分な状況が見られる。	【満足度指標】 教材や教具の管理や整理整頓がされている。	教職員アンケートで，「教材・教具の管理と整備整頓ができた。」と回答した割合が A 90%以上である。 B 80%以上である。 C 70%以上である。 D 70%未満である。	C・Dの場合は再検討する。 1,2学期末に教職員にアンケートを実施する。	A	教職員アンケートで、「できた」「どちらかというとできた」の回答率が93%であったことから，全体的に意識して取り組めているといえる。2学期以降も，教職員に声かけをすることで，意識化を図っていく。

学校関係者評価	・個に応じた学びの充実を図ることで、子供たちが45分間、学びの楽しさを感じながら学習に向き合えるような授業改善をしてほしい。 ・クロームブックなどのICT機器を効果的に活用して、子供たちの学びがよりよい学びにつながるようにしてほしい。 ・学力調査の結果分析を受けて、成果と課題を明確にし、子供たちの学力を高めていってほしい。 ・子供たちのよさをほめ・認め・励ますと同時に、子供が他の人に迷惑をかけるなどのような悪いことをしたときは、しっかりと叱る指導をしてほしい。